

# グアム (GUAM) 島

2011年3月

杉の花粉が舞う千葉を脱出し、グアム島を訪れた。西太平洋に浮かぶ常夏のこの島は、淡路島と同じぐらいの大きさで、直行便なら約3時間半の近さである。

昭和47年(1972)グアム島の玉砕から28年、ジャングルに身を潜めていた横井庄一伍長が「恥ずかしながら、帰ってまいりました」と泣きながら挨拶をしたニュースは記憶に新しい。当時のグアムは新婚旅行の人気スポットになっていた。



3月8日：成田空港  グアム空港

コンチネタル航空 964 便は定刻の午後 8 時 50 分に成田空港を離陸した。機内は若い女性のグループや新婚カップルが多く、我々のような熟年組は少ない。グアム空港には夜中に到着し、旅行会社 (HIS) の車でシェラトンホテルにチェックインした時は、午前 3 時になっていた。

3月9日 🌴 : グアム インターナショナル カントリークラブ

朝9時に目が覚める。天気は良い。日本から持参したメロンパンで朝食を済ます。インターネットで予約しておいたレンタ・カー会社でレンタル手続きをする。早期に申し込みをしていたので格安（US\$29/日、自賠償保険込）で借りることができた。グアムは1ヶ月以内なら日本の運転免許証でよい。

車はトヨタ。左ハンドル、右側通行はフィリピンやハワイで経験しているが、慣れるまで慎重に運転し、グアム インターナショナル カントリー クラブ（GICC）に向かう。このコースはアドバイザーとして岡本綾子プロが参画している18ホール（6,000ヤード パー72）で、ガイドブックには、池やクリーク、バンカーが配置され、難易度が高いと書いてある。



北コース、No.1.ホール

午後のせいかプレーヤーは少ない。北コース（9H）からスタートする。各ホールの距離はそれほどないが、フェアウェイやグリーンのおねりに悩まされる。気温は30度C以上と思うが、風があるのであまり暑さを感じない。プレー費はUS\$80。60歳以上の人には\$10相当のクーポンサービスがあり、これを利用しハーフを終えたところで遅めの昼食をとる。南コース（9H）ではバンカーの大叩きがあったものの、グアムでの初ラウンドは100を少し切るまじまじのスコアだった。

ゴルフ場からの帰途、観光スポットの恋人岬（Two Lovers Point）を訪れた。展望台からの眺めは素晴らしく、展望デッキ（海拔122m）の先端から下を覗くと足がすくむほどである。スペイン人の船長と結婚させられそうになった現地の娘が恋人とお互いの長い髪を結び、この絶壁から身を投げたという伝説が恋人岬の名の由来となっている。

ホテル近くのアウトレットで飲み物と夕食を仕入れ、18時ごろホテルに戻る。部屋のベランダから沈む夕日を眺め、夕食をとる。ゴルフの疲れとほろ酔いで、すぐのおやすみとなるzzz。。



恋人岬からタモン湾を望む



Sunset

3月10日 🌴 : カントリークラブ オブ ザ パシフィック

6時起床、今日も良い天気だ。朝食後、4号線を南下し、島の南東部にあるカントリークラブ オブ ザ パシフィック (CCP) に向かう。このコースは太平洋の眺めと広いフェアウェイが魅力の18ホールで、パームツリーで仕切られたホールはグアムらしくトロピカルな雰囲気である(6,374ヤード、パー72)。US\$110のプレー代を払い、午前8時にティーオフ。コースのメンテは良く、楽しいはずのプレーであったが、OB、ハザード、バンカーなど、いつものトラブルに加え、うねりと高速グリーンにお手上げとなる。前半のスコアは58、後半は50を目標にプレーを続ける。しかし、度重なるミスショットと暑さに負け、スコアは54と惨憺たる結果でグアムでのラウンドは終わった。



No.10 ホール

ゴルフ場を後にし、ビーチ沿いにある「Jeff's Pirates Cove」という名のレストランで、店長おすすめの海賊料理を味わう。スペアードリフト、チキン照り焼き、シーフーズなど盛りだくさんである。午後は島の南部をドライブするのでビールを飲めない。安全運転の為には我慢するしかない。



海賊料理



レストランのシンボル前にて



聖ヨセフ教会

満腹後、20分ほど走るとスペイン時代の面影を残すイナラハンという村に到着する。美しいフォルムの聖ヨセフ教会でドライブの安全を祈る。さらに15分走り、島最南端の村、メリッツオでコバルトブルーの海に浮かぶココス島を眺める。つぎに400年ほど前にマゼランが訪れた地として歴史にその名を残すビレッジ、ウタマックを通り、セッティ湾展望台から太平洋を望む。

最後は島の中央にある首都ハガニアの街並みやハガニア湾を一望できるビューポイント、サンタ・アグマダ砦（別名アプガン砦）へ上り、シーサイドドライブも終わる。



レンタ・カー



アプガン砦からハガニア湾を望む

3月11日 🌴 : ホテル ➡️ グアム空港

ゆっくりと朝寝をし、朝食後、ホテルのプールでひと泳ぎ。レンタ・カーを返却し、マクドナルドでハンバーグの昼食後、空港に向かう。17時5分発、コンチネンタル963便の搭乗券を手にし、出発ゲートで搭乗を待つ。午後4時20分頃（日本時間3時20分）成田空港の滑走路が閉鎖されたので、しばらくお待ちくださいとのアナウンスがある。係りの人に聞くと宮城沖で地震があったようだ。しばらくすると今日の成田行きの便はキャンセルという。

航空会社の案内で再度グアムに入国し、旅行会社（HIS）の到着客用のロビーで待機すること3時間、午後9時を過ぎても状況はわからない。夕食を買うために出発ロビーに行くとTVのCNNニュースが日本の地震状況を伝えている。Magnitude8.8、死者32、負傷多数の文字とともに津

波の映像を流している。ホワイトハウスはアメリカ西海岸の都市やハワイなどに津波警報を出している。えらいこっちゃ、これではいつ日本に帰れるかわからへんと覚悟する。

HIS の情報によると、グアムにも津波警報が出ており、海岸沿いの道路は閉鎖され、ホテルの客や従業員は皆3階以上に避難しているという。従って、空港で足止めされている我々のためのホテルの空室も少なく、部屋代は US\$200 以上と割高になっているとのことである。

午後 11 時、地震の情報を得るため再度 TV のある出発ロビーに行く。仙台の津波の映像を見てみると、TV カメラを構えた男性とマイクを持った女性に声をかけられた。「Are you Japanese?」  
「Yes, ??。」 TV カメラには「KUAM」と書いてあり、地元の TV 局のインタビューらしい。

「この地震についてどう思いますか？」 「非常に大きい地震です。恐ろしい津波です。」  
「あなたは日本のどこに住んでいますか？」 「千葉。東京の近くです。」  
「家族は大丈夫ですか？」 「子どもと孫が東京に住んでいます。無事を祈っています。」

アナウンサーはチャンネル 8 の TV ニュースでこのインタビューが放映されるといっていたが、見る機会はなかった。

3月12日  : グアム 待機

午前 0 時、ロビーには 100 人ほどの客が待機している。新潟へ向かったが、途中で引き返してきた人たちもいる。HIS の係員から US\$100 以下のホテルが手配できたので、希望者をホテルに送るといふ。グアムで金を使い果たし、もうホテルに宿泊できない若者や、一刻も早く日本に帰りたい人たちを空港に残し、私たちが約 30 名がバスに乗り、空港に近い「ハーモン・ループ・ホテル」に避難した時は 1 時を過ぎていた。

部屋の TV で NHK のチャンネルを探し、地震と津波の被災状況を見てびっくりする。この状態ではいつ日本に帰れるかわからないことを覚悟し、ベッドに入る。

地震の後、携帯電話（ソフトバンク）とホテルの電話で日本への通話を何度も試みるが、通じない。ホテルのロビーにパソコンがあったので、Yahoo mail にログインし、息子と娘に「我々はグアムで足止めされているが、大丈夫」と送信する。

ホテルの部屋代はクレジットカードで支払ったが、手持ちの US\$ が少ないので、9 時を待ち近くの銀行に行く。しかし、今日は土曜日なので両替はできないという。ホテルのママさんに両替を頼むと、2km ほど離れた「マイクロネシアモール」内の銀行で両替ができるといい、そこまで車で送ってもらう。両替後、モール内のフードコートで昼食をとる。チャーシューメンとカレーライスを二人で分け合う。うまかった。

モール内にクレジットカード払いの公衆電話があったので、浦安に住む娘に電話する。川口

と流山に住む息子たち一家も無事と知り、ほっとする。夕食と缶ビールを仕入れ、タクシーでホテルに戻る。TVを見ると地震のニュースが続いている。自宅から5kmほど離れたコスモ石油のタンク火災は鎮火したようで一安心。しかし、成田空港から自宅への鉄道と道路は不通となっている模様である。

午後7時、HISから連絡があり、明日13日は札幌と関空行、14日には成田行きの便があるという。14日の成田行きのフライトを予約する。

3月13日  : グアム空港  成田空港

日本に帰るのが明日になるなら、今日は再度レンタ・カーを借りてゴルフをしようかと相棒と話していた午前7時半、HISから電話が来た。8時50分発の成田行きに空席ができた。10分で出発準備できるならホテルに迎えに行くと。準備OKと答え、急いで荷造りし、迎えの車に乗り込む。あわただしくチェックイン、セキュリティ検査を済ませ、8時50分発の機上からグアム島に「さよなら」する。

11時30分、成田空港に到着すると、ロビーにはスイスの救援隊が犬を連れ準備していた。運行を始めたJRに乗って帰宅した我が家は、震度5の揺れに耐え、おおきな被害がなかったのは幸이었다。



シェラトンホテル ロビーからの眺望

地震から1週間が過ぎた。まだ続く余震、停電、ガソリンなどの不足、原発の放射能、杉花粉などに悩まされる毎日に、「春よ早く来い」と願うばかりである。

参考資料：グアム島の戦い（近現代史編纂会「サイパンの戦い」より抜粋）

「昭和 19 年（1944）7 月 21 日午前 4 時半過ぎ、米軍の空と海からの一斉砲爆撃が始まった。そして午前 7 時半、米軍は西側の海岸から上陸を開始した。この米軍上陸地点を守備していた日本軍は、「敵ヲ水際ニ於テ撃滅ス」という作戦どおり、押し寄せ米軍の上陸用舟艇や水陸両用戦車約 70 両を海岸近くまで引き寄せ、一斉砲撃を加えて”撃退”した。幸先のいい戦闘開始と思われた。ところが、これは日本軍の火炮の位置を知るための米軍のワナだった。事実、味方が海岸線から撤退するやいなや、米軍の爆撃と艦砲射撃は熾烈をきわめ、日本軍の主要重火器の大半は早々に破壊されてしまった。米上陸部隊は砲爆撃が止むと同時に、本格的な上陸戦を開始してきた。主要重火器を破壊された日本軍は手榴弾を投げ、銃剣で立ち向かう白兵戦を挑んだが、海岸の日本兵はバタバタと斃られていった。硝煙のかなたに陽が沈むころには、日本軍守備隊一万八千名の約 8 割近くは戦死していたのである。

